

会 報

平成10年度 日本生物工学会 年次大会 後記

日本生物工学会の平成10年度大会は、平成10年10月28日（月）より30日（水）まで、広島大学東広島キャンパスで開催された。3日間にわたって一般講演561件、シンポジウム8課題53件、招待講演3件、受賞講演4件、合わせて621件の講演が行われた。参加人数は正会員、学生会員、非会員を合わせて約1,300名であった。

また、展示会は26社の協力を得て、大学会館を会場として行われた。

第2日には、午前中に授賞式があり、小林会長挨拶、授賞選考経過報告のあと、生物工学賞（木村 光氏）、技術賞（藤尾達郎氏ら）、斎藤賞（山下光雄氏）、照井賞（魚住信之氏）、論文賞（山本英司氏ら、橋 佳永氏ら、中宮邦近氏ら、坂井美穂氏ら、秦 洋二氏ら）が授与された。ついで、名誉会員および顧問の推戴式が挙行され、岡 徹夫氏が名誉会員に、また、合葉修一氏、千畑一郎氏、永井史郎氏がそれぞれ顧問に推戴された。記念写真撮影のあと、木村 光氏より「酵母の機能解析とその応用」と題した生物工学賞受賞講演が、藤尾達郎氏より「異菌体間の共役反応による5'-グアニル酸（GMP）の生産」と題した技術賞受賞講演がそれぞれ行われた。なお、例年独立した形式で開かれていた日韓セミナーは、本大会では、招待講演として一般講演会場において行われた。初日午前より第3日までの一般講演、シンポジウム、受賞講演（斎藤賞、照井賞）、招待講演いずれもプログラムに従って、盛況裏に滞りなく進行了た。

以下に平成10年度大会をふりかえり、その感想を思いつくままに列記する。

1) 西日本支部が担当した年次大会は、日本醸酵工学会当時、平成3年11月に広島国際会議場で開催した第43回大会があるが、本大会では演題総数621題と本学会大会史上最多を記録し、13会場が必要となり、当時と比較しおおよそ倍の規模となった。2) 第2日の午前に授賞式および受賞講演が行われたが、会場が一般教室であった

ため、演台部分が狭く、授賞式典会場としては若干窮屈であった。しかし、受賞講演はむしろ都合が良かった。今回は同一会場で生物工学賞に加え技術賞の受賞講演が行われたためか、従来より多い約230名の参加者があった。3) 8課題のシンポジウムに関しては、何れも立ち見席がでる状態で大変盛況であった。これは企画が良かったためと思われ、企画された先生方に深く感謝します。なお、会員演者には具体的な特典が何もないので、せめて講演要旨集を無料供与したらどうかとの意見があった。4) 初日の夜開かれた生物工学若手研究者の集いには、約80名の参加者がおり、気楽な雰囲気で大いに盛り上がり、全国若手の交流に大変有益であった。5) 初日の午後に総合受付の前で、3時間に亘って西条酒造組合のご協力による「利き酒」を行ったところ、参加者は各社自慢の大吟醸酒を自由に嗜み、大好評のうちに終了することができた。6) 展示に関しては、都市圏から離れた土地柄、不景気、他の学会が同時期に開かれていたことなどから、昨年の大会での展示数を下回ったが、会場を総合受付に隣接して設営したため、入場者数が多く参加企業の評判も良好であった。7) 第2日夕方に、東広島平安閣で行われた懇親会には約350名の参加者がおり、大盛況のうちに終了した。料理も好評であり、とりわけ樽酒とともに多数の広島県下の酒造メーカーから協賛された冷酒は大好評であった。なお、懇親会の場で日本と韓国の生物工学会間の学術交流の協約が締結されたことは意義深いものであった。また、外国からの研究者、女性の研究者を交え、華やかに鏡割りが行われたことも印象的であった。また、平成11年度大会は関西支部主催で行われる旨、菅 健一先生のご挨拶があった。8) 初日の朝広島市内から広島大学への直行バスに人が集中し乗り切れなかったとの苦情があった。予約しなくても大丈夫と思っていた人がかなりいたということを、当初予想出来なかった点を反省している。

今回の大会は、中国・四国地区の多くの大学、研究機関、企業の方々のご協力に支えられて無事終了することが出来ました。また、本部をはじめ各方面から多大なご協力と適切なアドバイスを頂きました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。来年度の関西支部で開催される年次大会の成功を祈念してこの稿を終えたいと存じます。

平成10年度大会実行委員長 長谷川 徹

日本生物工学会と韓国 KSBB 間の 合意書調印について

去る9月29日の日本生物工学会大会の懇親会に先立ち、日本生物工学会（The Society for Fermentation and Bioengineering, Japan, SFBJ）と韓国 Korean Society for Biotechnology and Bioengineering (KSBB) 間の相互交流に関する合意書（Agreement）の調印式が行われました。そして日本側からは小林 猛本学会会長が、韓国側からはKSBBのByung Ki Hur 会長が合意書に署名を行いました。大会プログラムにも掲載されていない出来事であったので驚かれた方もあったかと思います。本学会の渉外担当理事として、合意書調印に至る経緯について若干ご説明を致したいと思います。



受賞のみなさん



両会長による調印

ご存じのように日韓合同セミナーは、以前から日本韓国の双方で両学会の大会の一環として行われてきました。今年の4月に私が韓国 KSBB の年次大会（全州）での合同セミナーに参加した際に、Hur 会長を始めとする KSBB の首脳陣と日韓セミナーの将来について意見を交換する機会があり、そこで今後両学会の協力関係を継続、さらに強化していくために、両学会で交流に関する正式な合意書を取り交わそうということになりました。その後、KSBB の国際担当 secretary の Bong Hyun Chung 氏と私で具体的な内容についてメールでやりとりし、最終的には調印式の前日に、日本側からは小林会長、吉田敏臣副会長以下計5名が、韓国側からも Hur 会長、Young Hyun Lee, Sang-Ki Rhee 両副会長以下計5名が参加して話し合いが持たれました。その結果最終的な合意に達し、懇親会場に於ける調印式に至ったわけです。

合意の内容の概略は、(1) 両学会の大会に相互に最大3名までを招待する、(2) 講演内容は限定しない、(3) 日本側は秋の大会に、韓国側は春の大会にそれぞれ相手側を招待する、(4) 招待側は講演者1名につき5万円、またはそれに相当するウォンを支払う、となっています。

既に今回の広島大会では、上記の合意書に従って韓国 KSBB から3名を招待しております。ご協力頂きました大会関係者に厚く御礼申し上げますと共に、今後開催される日本生物工学会の大会も、この合意書に従って最大3名の韓国 KSBB からの招待講演が行われることになります。今後大会運営に携わる先生方のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

日本生物工学会理事・渉外担当 五十嵐泰夫

日本生物工学会 第6回囲碁大会報告

本年も日本生物工学会大会に合わせ、第6回囲碁大会会長杯を開催致しました。

今年は、地元広島大学の木梨陽康先生が、腕自慢20名をなで切りに抑えて、栄冠を獲得されました。又、土佐哲也副会長も準優勝を獲得され、一同その勝負強さに敬服させられた次第です。

お二人とも初参加での栄冠で、表彰式では参加者一同の惜しみない拍手を受けて居られました。他の方々も、手筋・勝負・親睦・飲み物と、思い思いの方法で手談を楽しんで頂きました。

開催に当たっては、サクラ精機㈱から進行係、㈱千代田製作所



囲碁大会会長杯授賞

から賞品・進行役のご芳志を賜りました。

また西尾尚道先生はじめ、広島大学の諸先生・学生の皆さんから、ご多忙中にもかかわらず会場設営その他ご尽力を賜り、改めて御礼申し上げます。

この催しもはや6回を終了しました。来年度は新規支援に名乗りを挙げて頂いた企業殿もあり、更に充実を図りたく皆様のご協力をお願いして報告といたします。

記

開催日時：平成10年9月28日（日本生物工学会年次大会初日）

開催場所：広島大学 大学会館館

対戦方法：ハンディ戦、変則スイス方式、3回戦（時計を使用。持ち時間25分）。

大会参加費：2,000円

入賞：優勝 木梨陽康（広島大学教授）

準優勝 土佐哲也（田辺製薬㈱取締役相談役）

3位 鈴木智雄（宇都宮大学教授）

参加賞 入賞者以外全員

委員長（信州大学）岡崎 光雄

文責・幹事 ㈱千代田製作所 黒岩 巖

平成10年度 第2回編集委員会議事録

1. 日時 平成10年9月28日（月）12時30分～13時20分

2. 場所 広島大学大学会館 集会室4

東広島市鏡山1-4-1（TEL. 0824-24-6149）

3. 出席者 小林 猛・土佐 哲也・吉田 敏臣・今中 忠行
大竹 久夫・太田口和久・五味 勝也・阪井 康能
清水 昌・清水 和幸・園元 謙二・高木 昌宏
長棟 輝行・古川 謙介・福田 秀樹・藤田 正憲
本多 裕之・宮本 和久・村田 幸作・山本 憲二
山田 隆・依田 幸司 *印 委任状

4. 議事の経過および結果

小林会長の挨拶に続いて、今中編集委員長が司会進行を担当して以下の議事を進めた。

第1号議事 英文誌・和文誌の編集状況報告

清水 昌和文誌編集委員長および今中忠行英文誌編集委員長は、別紙資料に基づいて原稿受付状況および投稿数と掲載数について、ともに上半期は前年度を上回る数字をたどり順調に推移しているこ

とを報告して承認された。

第2号議事 英文誌の名称変更について

今中英文誌編集委員長は会員増、投稿数の増加、impact factorの向上、Medineへの掲載を目指すには、英文誌の現行名称を改正する必要があることを説明した。また、名称変更の議論は、編集委員会をはじめ常任理事会、理事会等で数回行われ、具体的な実施時期と新名称の議論が行われたことを報告した。これらの状況を勘案して、平成11年1月号から新名称を[Journal of Bioscience and Bioengineering]に改めたいと提案した。

この提案について協議した結果、提案の通り平成11年1月から新名称で刊行することを理事会に提案することを決めた。また、英文の学会名称も新名称に基づいて[The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan]と改めることを理事会に提案することにした。

第3号議事 編集幹事の処理方法の改善について

編集業務の迅速化について、①審査員の意見に基づいて著者から改訂版が返送されてきた時は、編集委員が判断して可否を決める。原則として従来のように再審査を審査員に依頼しない。②著者や審査員との連絡はfax, e-mailなどを利用して迅速化する。

第4号議事 レビュー担当委員の新設について

Impact factorを上げるために、毎月1報の総説を掲載する。当面は編集委員が中心となって執筆することを決めた。なお、清水(昌)、村田、清水(和)、園元、古川、大竹、宮本の諸委員が明年の前半の執筆担当者となることを決めた。

第5号議事 その他

外国人の編集委員は、適当な時期に増員または交代する必要がある。適当と思われる方の推薦を依頼した。

ハ) 会計報告：隅野靖弘会計担当理事は、資料に基づいて収支、貸借対照表、正味財産増減計算書について報告した。

ニ) 企画報告：木村 光企画理事は、本年度の事業消化状況の報告および次年度の大会、シンポジウム、技術セミナーの担当支部の確認ならびに事業計画の早期提案を促した。

ホ) その他報告：吉田敏臣副会長は、会費未納者に対する回収方法について活性化委員会の意向に添って、未納者の紹介者へ未納金の回収と会への復帰を奨める依頼を行ったこと、およびその成果について報告した。

第2号議事 英文誌の名称変更について

今中英文誌編集委員長は会員増、投稿数の増加、impact factorの向上、Medineへの掲載を目指すには、英文誌の現行名称を改正する必要があることを説明した。また、名称変更の議論は、編集委員会をはじめ常任理事会、理事会等で数回行われ、具体的な実施時期と新名称の議論が行われたことを報告した。これらの状況を勘案して、平成11年1月号から新名称を[Journal of Bioscience and Bioengineering]に改めたいと提案した。

この提案について協議した結果、提案の通り平成11年1月から新名称で刊行することを決めた。また、英文の学会名称も[The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan]と改めることを決定した。

第3号議事 顧問の委嘱について

室岡理事は、第3号議事は7月31日開催された常任理事会において3氏に顧問を委嘱することが決議された。理事会の承認が必要であるが、時間の関係で持ち回り議決によることにした。従って形式上は既に持ち回りにより議決を得ているが、改めて承認を求めた。その結果、提案の通り合葉修一、千畑一郎、永井史郎のご3名を顧問に推薦することを決めた。

第4号議事 評議員候補者の推薦方法について

室岡理事は、平成11年6月に任期が始まる次期の評議員候補者の推薦にあたり細則に従って推薦委員の選出を諮った。協議の結果、次期評議員候補者推薦委員は支部長を含めた常任理事会がその任にあたることを決めた。

第5号議事 授賞とくに副賞の改正について

室岡理事は、現行の賞牌および副賞について時代に相応しくコンパクトで何処にでも飾れるような品格のある賞牌にデザインを改めたいこと、および副賞は4賞との関連を考慮して同額とすることを提案した。協議の結果、提案の通り決定した。

第6号議事 海外会費の改正について

室岡理事は、平成11年度からの国内の会員会費およびエルゼビア社の購読料を値上げしたことに伴い、海外会員についても改正の必要があることを説明した。つまり海外会員を現行会費10,000円を12,000円に改正すること、および海外関連学協会会員は据え置くことを提案した。この提案について協議した結果、提案の通り決定した。

平成10年度 第3回理事会議事録

1. 日 時 平成10年9月29日(火) 11時30分～13時20分
2. 場 所 広島大学大学会館 集会室1
東広島市鏡山1-4-1 (TEL. 0824-24-6149)
3. 出席者 小林 猛・土佐 哲也・吉田 敏臣・今中 忠行
五十嵐泰夫・石川 雄章・今安 聡・大竹 久夫
木村 光・*北村 勲平・木下 晋一・*新名 惇彦
清水 昌・*正田 誠・隅野 靖弘・田中 秀夫
西山 徹・古川 謙介・室岡 義勝・山根 恒夫
監 事 永見 憲三・谷 吉樹 *印 委任状
4. 議事の経過および結果

室岡義勝庶務担当理事は、理事の出席数(本人出席17名、委任状3名)を確認して理事会の成立を宣した。続いて小林会長の挨拶ならびに新理事の石川雄章氏を紹介して議事に入った。

第1号議事 平成9年度事業中間報告の承認について
担当理事から以下の事項について、4月から8月までの事業経過ならびに経理状況の報告があり承認された。

- イ) 庶務・事業報告：室岡義勝庶務担当理事は、資料に基づいて事業、会議開催状況ならびに会員異動状況について報告した。
- ロ) 編集報告：清水 昌、今中忠行両編集担当理事は、資料に基づいて和文誌および英文誌の原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した。

平成10年度 第2回評議員会議事録

1. 日 時 平成10年9月30日(水) 12時30分～13時20分
2. 場 所 広島大学工学部 115講義室
東広島市鏡山1-4-1 (TEL. 0824-24-7712)

3. 出席者 荒井 基夫 外51名

4. 議事の経過および結果

室岡義勝庶務担当理事は、評議員の出席数（本人出席52名、委任状37名）を確認した上で評議員会の成立を宣した後、議長選出について諮ったところ、大嶋泰治氏を全員一致で選出した。続いて議長および会長の挨拶があり、議事録署名人に奥村 康、山田靖宙の両氏を指名して議事に入った。

第1号議事 平成9年度事業中間報告の承認について

担当理事から以下の事項について、4月から8月までの事業経過ならびに経理状況の報告があり承認された。

イ) 庶務・事業報告：室岡義勝庶務担当理事は、資料に基づいて事業、会議開催状況ならびに会員異動状況について報告した。

ロ) 編集報告：清水 昌、今中忠行両編集担当理事は、資料に基づいて和文誌および英文誌の原稿受付状況および投稿数と掲載数並びに編集委員会、理事会の決議事項について以下の通り報告した。

a) 英文誌の名称を [Journal of Bioscience and Bioengineering] と改称したこと。

b) 英文誌に Review を毎月掲載する。

c) 論文の早期掲載を行う。

ハ) 会計報告：隅野靖弘会計担当理事は、資料に基づいて収支、貸借対照表、正味財産増減計算書について報告した。

ニ) 企画報告：木村 光企画理事は、本年度の事業消化状況の報告および次年度の大会、シンポジウム、技術セミナーの担当支部の確認ならびに事業計画の早期提案を促した。

ホ) その他報告：室岡義勝理事は、編集委員会および理事会で議

決した事項について次の通り報告した。

(イ) 顧問3名を委嘱したこと

(ロ) 賞牌および副賞額を改正したこと

(ハ) 新評議員45名を投票により選出したこと

第2号議事 英文誌の名称変更について

今中英文誌編集委員長は会員増、投稿数の増加、impact factorの向上、Medineへの掲載を目指すには、英文誌の現行名称を改正する必要があることを説明した。また、名称変更の議論は、編集委員会をはじめ常任理事会、理事会等で数回行われ、具体的な実施時期と新名称の議論が行われたことを報告した。これらの状況を勘案して、平成11年1月号から新名称を [Journal of Bioscience and Bioengineering] に改めたいと提案した。

この提案について協議した結果、提案の通り平成11年1月から新名称で刊行することを決めた。また、英文の学会名称も [The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan] と改めることを決定した。

第3号議事 役員（会長、副会長、監事、理事）の推薦方法について

大嶋議長は、平成11年5月末日で任期満了の現役員の推薦については、細則第8条に基づいてまず10名の推薦委員を投票し、投票に基づいて荒井基夫、大嶋泰治、児玉 徹および辻阪好夫の諸氏が協議して専門別、地域別、学・業界別、得票数などを配慮して15名程度の役員（会長、副会長、監事、理事）候補者推薦委員を選任することを提案した。この提案について協議した結果、提案の通り決定した。